

第2期 小松市スポーツ推進計画

～スポーツが生む夢、感動、そして絆～



小松市

令和6年6月

スポーツ推進の意義と計画策定の主旨

■計画の趣旨

小松市のスポーツ振興施策の方向性を体系的に定め、スポーツ施策を効果的・効率的に実施し、「スポーツを通じたまちづくり」を推進していくために策定するものです。

■計画の位置づけ

スポーツ基本法、国の第3期スポーツ基本計画（令和4年3月策定）や小松市の2040年ビジョン（令和5年11月策定）の理念や考え方を踏まえ、小松市のスポーツ施策の拠りどころとなる計画です。

■計画期間

令和6年度から令和15年度までの10年間です。

計画期間中であっても、社会情勢の変化等に適切に対応するため、適宜点検・評価を行い、必要に応じて計画の見直しを実施します。

■第2期計画策定時における社会状況

●北陸新幹線の小松開業

☞ 100年に一度の好機を活かし、「小松を明るく、にぎやかに」するための挑戦が求められる

●新型コロナ禍での東京2020オリンピック・パラリンピックの開催

☞ 様々な技術革新があり、ライフスタイルが大きく変化

●日本の人口動態が減少局面へ

☞ 少子高齢化が加速し、スポーツの担い手不足、スポーツ環境の維持が課題に

●持続可能な社会や共生社会の実現に向けた取組みの必要性が顕著に

☞ SDGsなどを念頭にいたスポーツ施策の推進が求められる

基本理念

すべての人が生涯にわたってスポーツに親しめるこまつ

— スポーツが生む 夢、感動、そして絆 —

夢、感動を与えるスポーツを推進し、「スポーツをする、観る、支える」すべての市民が、仲間とともに様々なスポーツを楽しみ、健康を増進し、生きがいを感じ、絆を深めることができるまちを目指します。



アマチュアスポーツを観戦する
プロチームを応援する
子どもの試合を応援する

する

スポーツ大会に参加する
仲間とスポーツを楽しむ
子どもとスポーツを楽しむ

観る

支える

スポーツイベントの運営スタッフになる
クラブで指導する
子どもの送り迎えをする

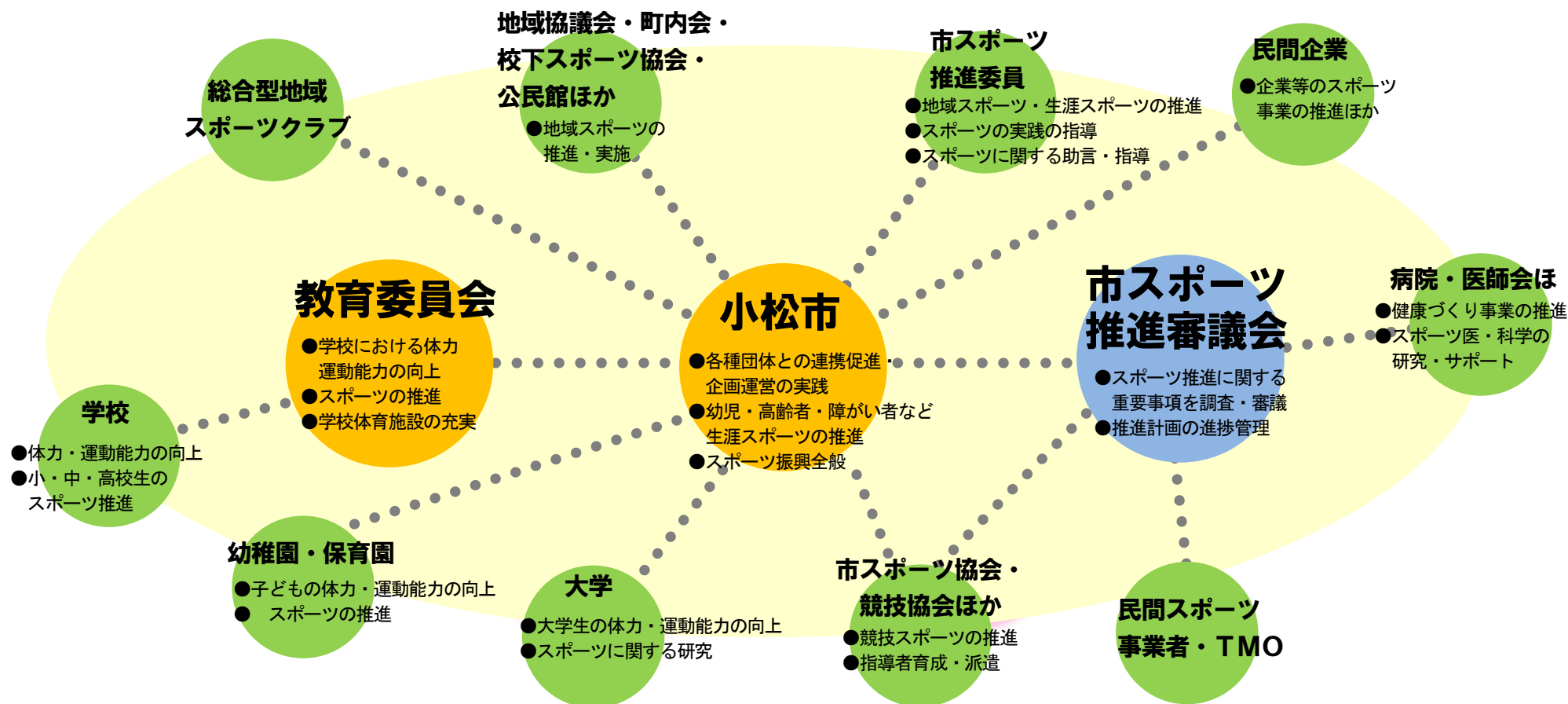
共創

スポーツ推進のための体制

市民・スポーツ団体、企業、教育機関、行政の共創によりスポーツを推進します

共創

点検・評価



取組

スポーツ推進のための取組

5つの柱で本市のスポーツ振興施策を構成し、効果的・効率的に展開します

①

子どものスポーツ環境の充実

世界との交流の担い手となるジュニア世代のスポーツ活動を推進します

- 学校における健康と体力を育む体育の充実
- 全学校において児童生徒の体力向上への取り組みの推進
- 運動部活動地域移行の推進
- 幼児期からの運動あそび・スポーツ活動を推進

②

スポーツツーリズムの推進

活気あるスポーツ市民と共創し、世界との交流を推進します

- 国際・全国大会、プロスポーツ、スポーツ合宿などの誘致
- スポーツツーリズムの広報活動の強化
- スポーツ市民サポーターの充実

③

生涯スポーツの推進

健康寿命を促進し、地域コミュニティの交流を推進します

- シニア世代・障がい者のスポーツ活動の推進
- 普段着で気軽に行うスポーツ活動の推進
- 健康づくりのための運動活動の推進
- 生涯スポーツ活動の推進、組織・人材の育成
- スポーツボランティアの育成・強化

④

トップアスリートの育成・強化

世界水準のこまつアスリートの育成・強化を通じて、世界との交流を推進します

- 世界水準のこまつアスリートの育成・強化
- 国際競技大会・合宿の誘致
- ジュニアアスリートの育成・強化
- パラリンピック選手の育成・強化
- NTC競技別強化拠点施設の充実
- 指導者の育成・資質向上

⑤

スポーツ施設の整備

誰もが生涯にわたってスポーツを楽しめる環境整備を推進します

- 小松運動公園周辺の機能充実
- 木場潟カヌー競技場の機能充実
- 大倉岳高原スキー場の充実
- その他、市内スポーツ施設の環境整備・充実

取組①

子どものスポーツ環境の充実

ジュニア世代のスポーツ活動を推進します

■学校における健康と体力を育む体育の充実

- 運動に親しむ資質や能力を育成する。
- 健康の増進や体力の向上を図る体育授業の工夫を図る。
- グラウンドや屋内運動場などの整備を計画的に行い、学校体育施設の地域開放を積極的に行う。

■全学校において児童生徒の体力向上への取り組みを推進

- 運動の楽しさや喜びを感じられる取り組みを推進する。
- 児童生徒の発育に応じたきめ細かな指導・マネジメントの充実を図る。

■運動部活動地域移行の推進

- 活動場所や活動費の確保、指導者の発掘や指導力向上など、地域移行に係る諸課題の解決を図る。
- 生徒が多様なスポーツに取り組める環境整備を図る。

■幼児期からの運動あそび・スポーツ活動を推進

- ゴールデンエイジから体を動かす機会の創出に努める。



取組②

スポーツツーリズムの推進

空港、新幹線駅を最大限活かし、スポーツを通じてまちづくりを推進します

■国際・全国大会、プロスポーツ、スポーツ合宿などの誘致

- カヌーの国際大会や各種目の全国大会、プロスポーツの積極的な招致を図る。
- スポーツクラブなどによる交流大会・試合を促進する。
- 大会や合宿等で小松を訪れた方に、市内観光、食事、買い物を楽しんでもらえるよう関係団体等と連携していく。

■スポーツツーリズムの広報活動の強化

- コンベンション補助制度を積極的に周知し、民間と連携してスポーツ合宿の誘致を図る。
- 外国語パンフ、プロモーションビデオ等の広報ツールを充実させ、インバウンドの誘致を図る。

■スポーツ市民サポーターの充実

- 研修会の開催等により、東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿で培ったサポート体制を継承・発展させていく。
- カヌー以外の競技における活動機会や選手との交流の機会を増やし、新たなサポーターの養成を図る。



取組③

生涯スポーツの推進

スポーツを通じて健康寿命を促進し、地域コミュニティの交流を推進します

■シニア世代・障がい者のスポーツ活動の推進

- 健脚体操や健康ウォーキングなど老人クラブや社会福祉協議会、スポーツ協会と連携・協力し、健康・体力づくりのための事業を推進する。
- スポーツ大会やニュースポーツ教室の開催により、障がい者スポーツの普及・振興を図る。

■普段着で気軽に行うスポーツ活動の推進

- 誰もが普段着で「好きなときに」「好きなところで」気軽に行うことができるスポーツ活動を推進する。

■健康づくりのための運動活動の推進

- 健康づくりのために、子どもから大人まで気軽に行うことができるウォーキングなどの運動活動を推進する。
- 生活習慣病予防のために日常生活に適切な運動を取り入れられるように運動指導や生活指導を行い、運動の習慣化を推進する。

■生涯スポーツ活動の推進、組織・人材の育成

- 誰でも身近で気軽に参加できる、市民スポーツ大会やスポーツイベントの充実を図る。
- スポーツ推進委員などの活性化、人材育成を図る。

■スポーツボランティアの育成・強化

- スポーツを「支える」人を増やし、スポーツイベント等でのボランティア活動の機会増やす。



取組④

トップアスリートの育成・強化

こまつから、トップアスリートの輩出を目指します

■世界水準のこまつアスリートの育成・強化

○こまつのお家芸であるターゲット種目（トランポリン・カヌー・飛込・ハンドボール）の他、各種目において世界の舞台で戦えるアスリートの輩出を目指す。

○NTC強化拠点施設を訪れる優秀な指導者から世界水準の指導方法を学び、水平展開を図る。

■国際競技大会・合宿の誘致

○国際大会や合宿等を積極的に誘致し、選手とのふれあいなどを通じた国際交流や青少年の育成を図る。

■ジュニアアスリートの育成・強化

○幼児期からジュニア期にかけて育成・強化を図り、将来世界で活躍できるアスリートを育成する。

■パラリンピック選手の育成・強化

○パラリンピック出場を目指すアスリートの発掘・育成・強化を図る。

■NTC競技別強化拠点施設の充実

○NTC競技別強化拠点施設（カヌースプリント・パラカヌー）のサポート体制をより一層充実させ、競技力向上を図る。

○日本代表選手のために、強化合宿などにおいて小松市を挙げて支援する体制を強化する。

■指導者の育成・資質向上

○各種スポーツ指導者の資格取得を促進し、高い指導力と専門知識を持つ指導者を育成する。



取組⑤

スポーツ施設の整備

生涯にわたってスポーツに親しめる施設、プロスポーツを誘致できる施設整備を推進します

■小松運動公園周辺の機能充実

- 空港、新幹線駅に近い地の利を生かし、より一層の機能充実を図る。
- 周辺スポーツ施設との連携を強化し、一体感のあるスポーツ集積ゾーンを形成する。

■木場潟カヌー競技場の機能充実

- 日本代表選手の強化に資するため、医科学サポートの充実や、トレーニング施設の機能向上を図る。
- パラカヌーの選手が利用しやすいよう、ユニバーサルデザイン化を推進する。

■大倉岳高原スキー場の充実

- ナイター設備を有し、市街地から 30 分で行ける貴重な施設を適切に管理し、計画的に設備の更新を図る。
- 民間とも連携し、通年利用の促進やインバウンド誘致を図っていく。

■その他、市内スポーツ施設の環境整備・充実

- 公共施設マネジメントの観点で施設の整備・管理を行う（予防保全（長寿命化）の推進、複合化、統合・廃止等）。
- 年齢、性別、障がいの有無等に関わらず、だれもが気軽に安心してスポーツを楽しめる施設に機能向上を図る。
- 地球環境への配慮、避難所としての機能向上、デジタル化（ICT など）など、様々な観点から整備を進める。
- 公共の枠にとらわれず、民間とも連携してスポーツ施設の充実を図っていく。
- スポーツ施設管理における DX 化を推進し、利用者の利便性を図る。



目 標

スポーツ推進のため指標

目標年度における小松市の数値指標を設定します

I N D E X			現在 2023 年	将来 2033 年
取組①	子どものスポーツ環境 の充実	■体力テストのすべての項目	小学生全国平均以上 男子6 / 8 女子8 / 8	全国平均以上
取組②	スポーツツーリズムの 推進	■スポーツ合宿延べ人数	4千人	2万人
取組③	生涯スポーツの推進	■週1回以上スポーツする 市民の割合（20歳以上）	—	65%以上
取組④	トップアスリートの 育成・強化	■世界大会・全国大会に出場する 選手の人数	525人	700人
取組⑤	スポーツ施設の整備	■小松運動公園の利用者数	38万人	60万人

資 料

これまでの歩み

小松市で開催された世界大会・全国大会やオリンピック出場に関する記録です。

主な国際大会・全国大会など

- 1982 年～ KOMATSU 全日本鉄人レース
- 1985 年 昭和 60 年度全国高等学校総合体育大会
- 1991 年 第 46 回国民体育大会
- 1999 年 第 67 回日本プロゴルフ選手権大会
- 2000 年 第 13 回全国スポーツ・レクリエーション祭
- 2010 年 ねんりんピック石川 2010
- 2011 年 日本スポーツマスターズ 2011 石川大会
- 2012 年 平成 24 年度全国高等学校総合体育大会
- 2015 年 日本スポーツマスターズ 2015 石川大会
- 2021 年 東京オリンピック・パラリンピック事前合宿

カヌー競技における国際大会・全国大会

- 2002 年 2002 ICF FWR ワールドカップ第 5 戦
- 2003 年 第 10 回世界ジュニアカヌー選手権大会
- 2004 年 アテネオリンピックアジア地区最終予選
- 2008 年 北京オリンピックアジア地区最終予選会
- 2022 年 アジア・パシフィック・カヌースプリント大会
- 随時 日本選手権、全日本学生選手権、全国中学生大会
日本カヌージュニア・ジュニアユース小松大会

オリンピック・パラリンピック出場選手

- 1968 年・メキシコオリンピック 村井富雄選手（ボート）
- 1988 年・ソウルオリンピック 坂田昌弘選手（ボート）
- 1992 年・バルセロナオリンピック 坂田昌弘選手（ボート）2 度目
- 1996 年・アトランタオリンピック 赤城千恵子選手（カヌー）
- 2000 年・シドニーオリンピック 村井啓介選手（ボート）
- 2008 年・北京オリンピック 豊田陽平選手（サッカー）
中川真依選手（水泳・飛込）
- 2012 年・ロンドンオリンピック 松下桃太郎選手（カヌー）
岸彩乃選手（トランポリン）
中川真依選手（水泳・飛込）2 度目
- 2021 年・東京オリンピック 松下桃太郎選手（カヌー）2 度目
岸大貴選手（トランポリン）
※男子（個人）7 位入賞
- 2021 年・東京パラリンピック 田中恵子選手／田中孝子選手
（ボッチャ）
※BC3 ペア 銀メダル獲得